

令和4年度(2022年度) 熊本県学力・学習状況調査 教科に関する調査の詳細

各学年・各教科の正答率

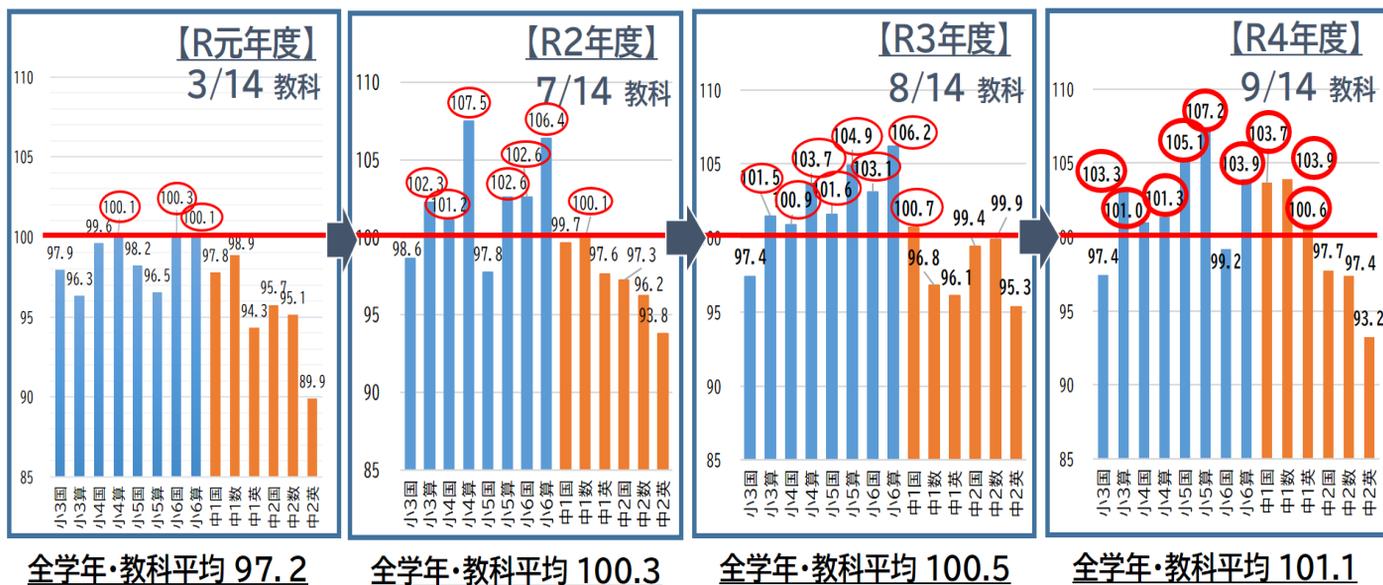
小学校		国語	算数
3年	目標値	72.2	68.9
	県 平均正答率	72.5	73.5
	全国 平均正答率	74.4	71.1
	全国平均正答率を100としたとき	97.4	103.3
	R3年度	97.4	101.5
4年	目標値	69.0	66.3
	県 平均正答率	72.7	69.2
	全国 平均正答率	72.0	68.3
	全国平均正答率を100としたとき	101.0	101.3
	R3年度	100.9	103.7
5年	目標値	69.8	60.0
	県 平均正答率	76.5	64.3
	全国 平均正答率	72.7	60.0
	全国平均正答率を100としたとき	105.1	107.2
	R3年度	101.6	104.9
6年	目標値	69.6	68.8
	県 平均正答率	73.9	74.3
	全国 平均正答率	74.5	71.6
	全国平均正答率を100としたとき	99.2	103.9
	R3年度	103.1	106.2

中学校		国語	数学	英語
1年	目標値	55.8	53.4	54.0
	県 平均正答率	61.2	52.8	51.7
	全国 平均正答率	59.0	50.9	51.4
	全国平均正答率を100としたとき	103.7	103.9	100.6
	R3年度	100.7	96.8	96.1
2年	目標値	64.3	53.3	54.2
	県 平均正答率	66.9	49.2	50.6
	全国 平均正答率	68.5	50.5	54.2
	全国平均正答率を100としたとき	97.7	97.4	93.2
	R3年度	99.4	99.9	95.3

※ 数値は、小数第2位を四捨五入して示しています。
 ※ 全国平均正答率を100としたときの県及び全国正答率の数値は、小数第2位を四捨五入する前の数値で算出しています。

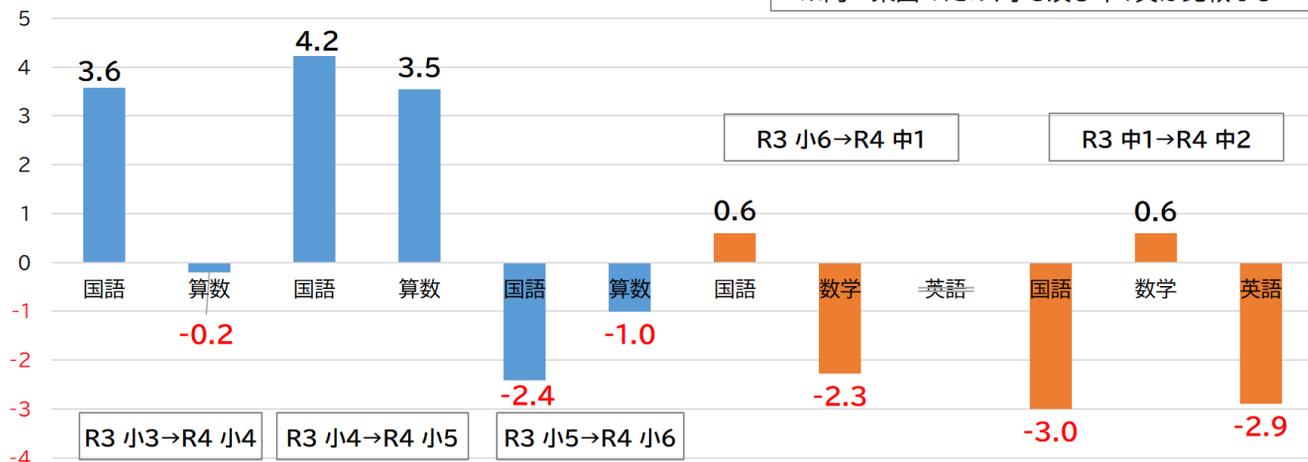
経年変化 (同学年別各教科)

※ 各学年・教科の数値は、全国平均正答率を100としたときの値と比較しています。



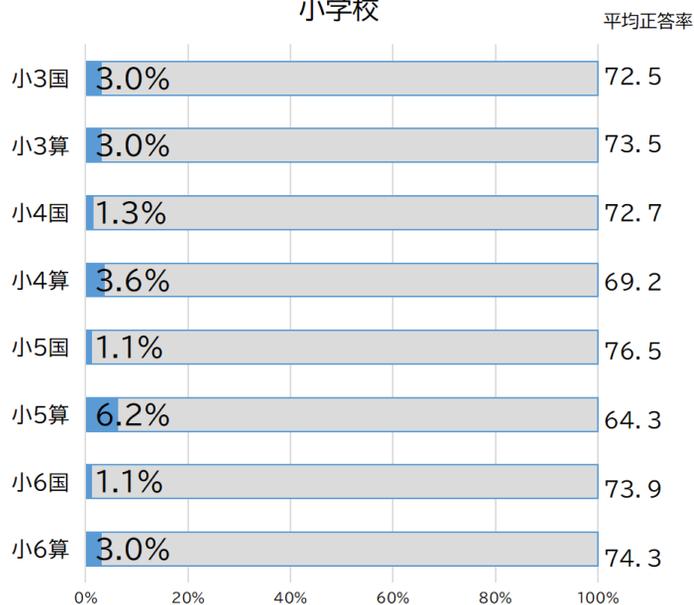
経年変化（同一集団の伸び 令和3年度→令和4年度）

全国値を100として、令和4年度と令和3年度の
県平均値の差を基に作成
※同一集団のため、小3及び中1英は比較なし

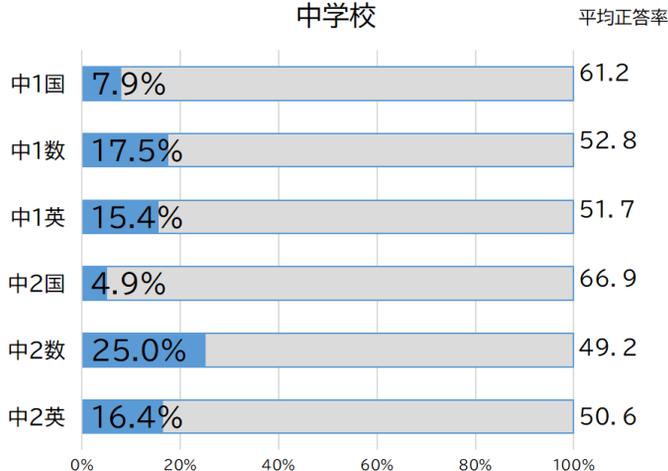


正答率3割未満の児童生徒の割合

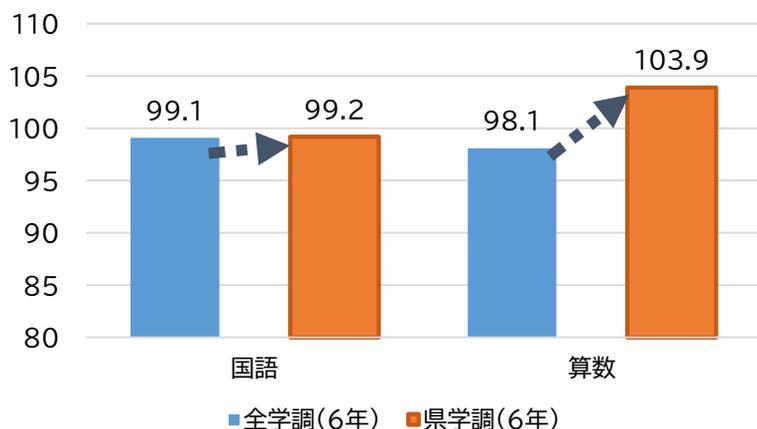
小学校



中学校



【参考】R4年度全国学力・学習状況調査結果との同一集団(小6)の比較

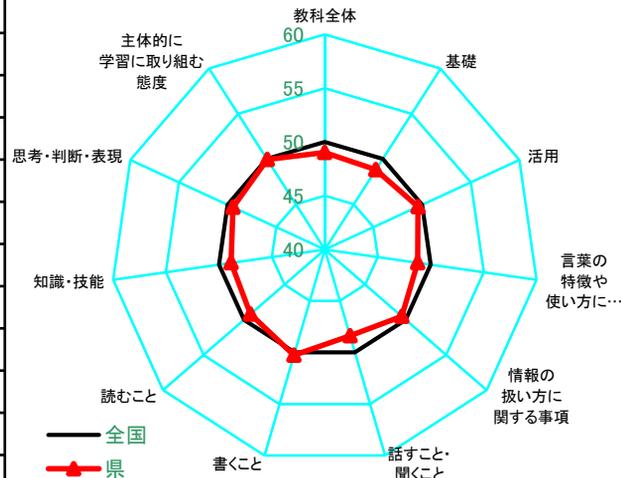


※ 数値は、それぞれの全国平均を100としたときの県の割合

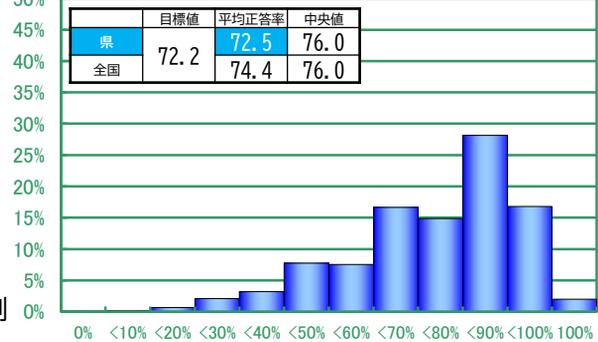
小学校第3学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	72.2	72.5	74.4
	基礎	77.6	77.4	79.7
	活用	60.6	62.0	63.0
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.0	76.0	78.6
	情報の扱い方に関する事項	51.7	44.5	45.9
	話すこと・聞くこと	81.7	87.2	90.8
	書くこと	58.3	58.7	57.9
	読むこと	70.0	70.8	73.0
観点	知識・技能	71.9	68.7	71.0
	思考・判断・表現	67.7	69.2	70.5
	主体的に学習に取り組む態度	59.0	59.2	59.3
解答形式	選択	74.2	75.8	78.0
	短答	80.0	77.7	80.9
	記述	59.2	59.6	59.5

★標準スコアによるカテゴリ間の比較(各カテゴリの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



★正答率度数分布



成果が見られた問題

7 正答率 69.8% (全国値 66.0%、目標値 65.0%)
指定された長さで文章を書いている。

課題が見られた問題

- 2 (1) ② 正答率 67.6% (全国値 74.5%、目標値 75.0%)
第3学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。
- 6 (2) 正答率 7.0% (全国値 10.1%、目標値 30.0%)
情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える事例との関係を明確にして書いている。

小学校第3学年 国語

継続して課題となった問題

- 6(2) (本県 7.0%)
- 複数の情報から、必要な部分を見つけ出すこと
 - 複数の情報を組み合わせて書くこと
に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】
・「地域の皆さんに聞いた話を生かした発表をする」と「写真を使って工夫して発表する」のうち、どちらか一方しか書いていない場合(県 28.0%)
・それ以外の誤答(県 51.4%)
【無答率】(県 13.7%)

誤答例から考えられる 授業での子供の姿

複数の資料がある場合、資料のどの部分が問われていることに関係するのかわからない。また、手順どおり書くことで終わり、複数の事例を入れたり相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりしていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 情報の扱い方に関する事項を扱う単元
- 案内状やお礼状を書くことを扱う単元
(3・4年知技(2)ア)(3・4年思判表B書(1)ウ)

◆誤答から考えられる授業

- ・単元のゴールである言語活動が学習の目的になってしまっている授業
- ・活用する資料が1つしかない授業

☆こんな授業へ

- 複数の資料の中の必要な部分がどこかを検討する話し合いを行い、自分の意見を根拠付ける資料になっているか確かめることを大切にした授業
- 書く目的や相手が日常生活と関連するなど、子供にとって書く必要感があり、書く楽しみのある授業

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R3県学調:小学3年6(1)
- ・H30県学調:小学3年4(3)

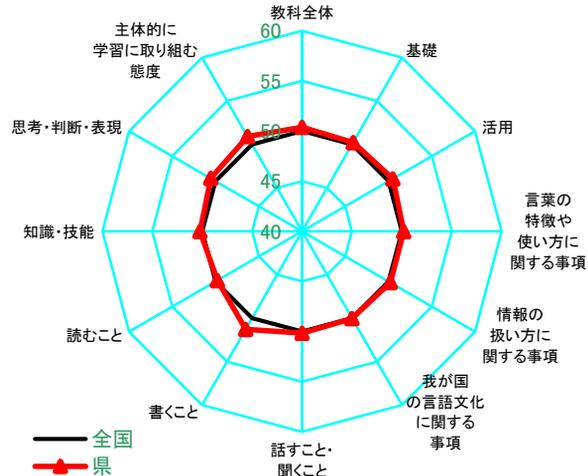
～こんな子供の姿へ～

目的や相手を意識し、複数の資料を活用しながら必要な部分を選び出し、書いて伝えることを楽しむ子供

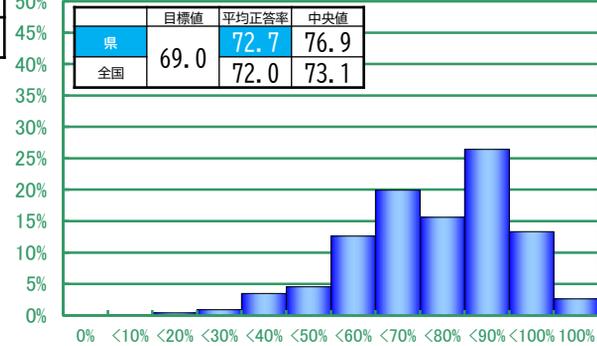
小学校第4学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	69.0	72.7	72.0
	基礎	74.7	79.3	78.9
	活用	58.3	60.4	59.1
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.8	83.2	82.8
	情報の扱い方に関する事項	56.7	59.8	59.1
	我が国の言語文化に関する事項	80.0	78.0	77.9
	話すこと・聞くこと	62.0	63.6	63.3
	書くこと	55.0	63.3	58.2
	読むこと	65.8	66.5	67.0
観点	知識・技能	73.0	78.2	77.7
	思考・判断・表現	61.7	64.7	63.4
	主体的に学習に取り組む態度	57.0	61.2	58.3
解答形式	選択	70.0	72.3	71.9
	短答	78.6	82.8	83.8
	記述	55.8	61.9	58.5

★標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



★正答率度数分布



成果が見られた問題

- 7 正答率 65.1% (全国値 59.1%、目標値 50.0%)
 段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。
 正答率 66.9% (全国値 61.3%、目標値 60.0%)
 内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いている。

課題が見られた問題

- 5 (2) 正答率 54.9% (全国値 56.5%、目標値 60.0%)
 叙述を基に段落相互の関係を捉えている。

小学校第4学年 国語

継続して課題となった問題

- 5(2) (本県 54.9%)
 ・説明文において、各段落の内容を捉えること
 ・段落相互の関係を捉えること
 に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
 各学校で問題を御確認ください。

【誤答】

- ・「1」を選択 (県 15.8%)
 - ・「2」を選択 (県 13.3%)
 - ・「4」を選択 (県 15.2%)
- 【無答率】(県 0.8%)

誤答例から考えられる 授業での子供の姿

説明文の段落に何が書かれているか、叙述を基に捉え、その関係性を考えながら読むことまでには至っていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 説明的な文章を扱う単元(3・4年思判表C読(1)ア)

◆誤答から考えられる授業

- ・説明文の文章構造を考慮することなく、内容の読み取りを中心に行っている授業

☆こんな授業へ

- 説明文の文章構造を捉え、段落相互の関係に着目しながら、筆者の考えや理由、考えを具体化する事例を捉えるようにした授業
- 筆者の書き方の工夫を見付けることで、自分の考えを表現する際に生かせるようにした授業

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R3県学調:小学4年5(1)
- ・H27県学調:小学4年3(2)(3)

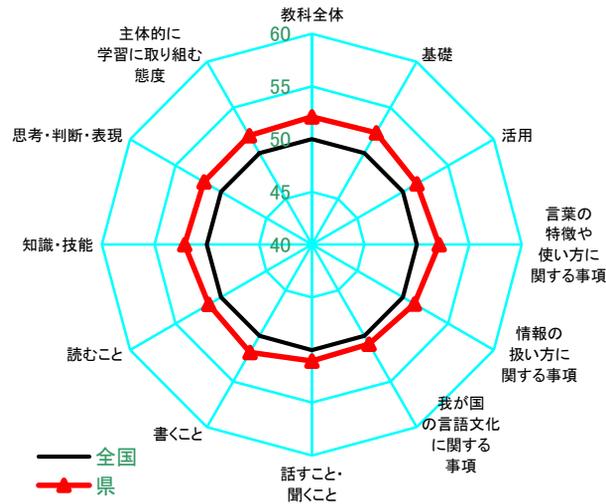
～こんな子供の姿へ～

書かれている意見や事例に着目し、段落相互の関係を捉えている子供

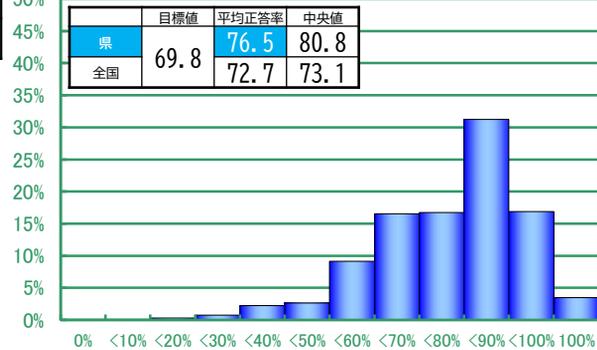
小学校第5学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	69.8	76.5	72.7
	基礎	73.9	80.2	76.6
	活用	60.6	68.0	64.1
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.1	79.5	75.9
	情報の扱い方に関する事項	45.0	46.7	41.7
	我が国の言語文化に関する事項	60.0	71.7	67.4
	話すこと・聞くこと	71.7	72.9	69.8
	書くこと	63.3	73.3	67.8
	読むこと	69.2	77.4	74.2
観点	知識・技能	68.9	74.2	70.4
	思考・判断・表現	67.3	74.8	70.7
	主体的に学習に取り組む態度	67.0	77.6	72.0
解答形式	選択	68.8	74.7	71.4
	短答	73.1	77.8	75.2
	記述	67.5	78.1	72.1

★ 標準スコアによるカテゴリ間の比較(各カテゴリの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



★正答率度数分布



成果が見られた問題

- 3 (2) 正答率 43.3%(全国値 32.1%、目標値 35.0%)
連用修飾語について理解している。
- 7 正答率 89.0%(全国値 83.4%、目標値 70.0%)
自分の意見を支える理由を明確にして書いている。

課題が見られた問題

- 1 (2) 正答率 74.9% (全国値 73.6%、目標値 80.0%)
話し手の目的に応じて、話の内容を捉えている。

小学校第5学年 国語

継続して課題となった問題

- 1(2) (本県 74.9%)
 - ・質問の意図を捉えること
 - ・話し手の目的を考えて聞くこと

に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】

- ・「1」を選択(県 21.1%)
 - ・「2」を選択(県 1.3%)
 - ・「4」を選択(県 2.5%)
- 【無答率】(県 0.2%)

誤答例から考えられる 授業での子供の姿

「話すこと」や「話し合うこと」の授業において、質問された場合、質問の意図を考えて答えるまでには至っていない。また、「聞くこと」の授業において、分からないことや聞き逃したことについての質問はできるが、話し手の話した内容の意図を聞くまでには至っていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 話すこと・聞くこと・話し合うことを扱う単元 (5・6年思判表A話・聞(1)エ)

◆誤答から考えられる授業

- ・聞き方や話し合いの方法だけの指導を行い、話された内容の把握の確認や話し方や聞き方の振り返りを十分に行っていない授業

☆こんな授業へ

- 「聞くこと」や「話し合うこと」の単元において、質問の種類(詳細を尋ねる、確認する、理由や方法を尋ねる、相手の評価・判断を尋ねる等)を示し、様々なパターンで質問する学習活動を設定した授業
- 録画機能を活用し、話し合い方を振り返ることを大切に授業

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・H30県学調:小学5年2(1)
- ・H29県学調:小学3年1(1)

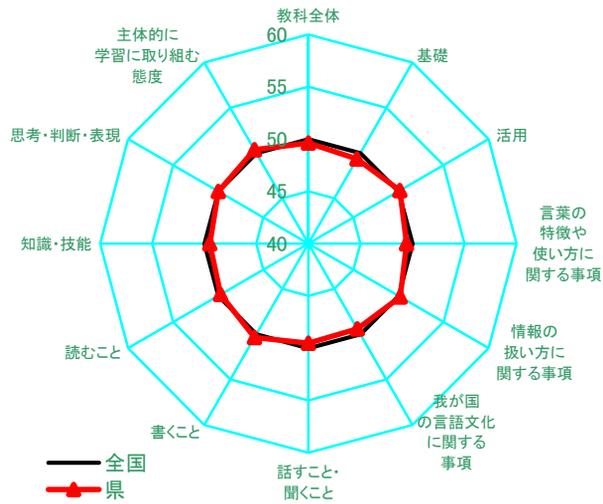
~こんな子供の姿へ~

話し合いの目的や話し手の目的を考えながら、相手の話を受けて、質問をしたり答えたりできる子供

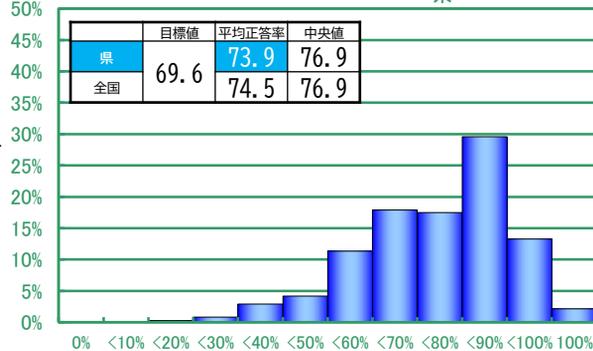
小学校第6学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	69.6	73.9	74.5
	基礎	74.1	77.3	78.4
	活用	61.1	67.6	67.3
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.5	79.1	80.2
	情報の扱い方に関する事項	35.0	30.3	29.7
	我が国の言語文化に関する事項	80.0	80.2	82.6
	話すこと・聞くこと	78.3	84.8	85.9
	書くこと	63.3	71.4	70.4
	読むこと	60.8	61.3	61.9
観点	知識・技能	69.3	72.2	73.2
	思考・判断・表現	65.3	70.0	70.1
	主体的に学習に取り組む態度	63.0	70.2	69.2
解答形式	選択	72.1	76.0	76.8
	短答	70.0	72.6	74.0
	記述	64.2	71.7	70.8

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



★ 正答率度数分布



成果が見られた問題

6 (2) 正答率 43.8% (全国値 42.4%、目標値 40.0%)
 情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている。

課題が見られた問題

2 (2) ②正答率 52.6% (全国値 57.0%、目標値 60.0%)
 第5学年に配当されている漢字を正しく書いている。
 4 (2) 正答率 63.0% (全国値 64.0%、目標値 65.0%)
 登場人物の様子について、描写を基に捉えている。

小学校第6学年 国語

継続して課題となった問題

- 4 (2) (本県 63.0%)
 - ・物語文において、登場人物の様子を描写を基に捉えること
 に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
 各学校で問題を御確認ください。

- 【誤答】
- ・「2」を選択 (県 31.8%)
 - ・「3」を選択 (県 2.4%)
 - ・「4」を選択 (県 2.8%)
- 【無答率】(県 0%)

誤答例から考えられる授業での子供の姿

選択問題において、物語文と同じ言葉が答えの選択肢に入っている場合、正解と判断し、文全体の意味を捉えていない。また、複数の描写に着目して登場人物の様子や心情を考えるまでには至っていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 文学的な文章を扱う単元(5・6年思判表C読(1)イ)

◆誤答から考えられる授業

- ・登場人物の様子や心情を問う一問一答の授業
- ・考えの根拠を複数の箇所から読み取らず、部分読みになってしまっている授業

☆こんな授業へ

- 描写と心情、様子を結び付け、複数の叙述から根拠を考え、その妥当性を話し合いながら解釈していく授業
- 語彙指導や読書活動と関連し、語句の意味や使い方に対する認識を深め、様々な表現で考えを表出し学び合う授業

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R4全学調:小学6年2一(1)(2)
- ・R3県学調:小学6年4(2)
- ・H30県学調:小学5年3(1)

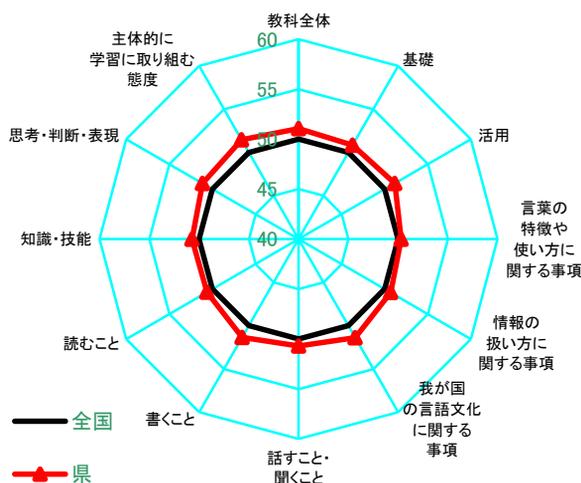
～こんな子供の姿へ～

描写の中の言葉に着目して、言葉と言葉との関係を捉えたり問い直したりしながら人物の様子や心情を捉える子供

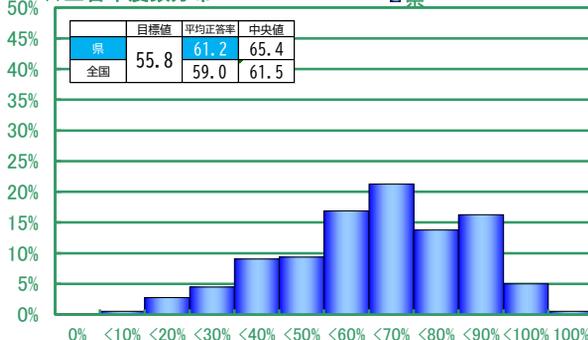
中学校第1学年・国語の観点別正答率(詳細)

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	55.8	61.2	59.0
	基礎	61.8	67.5	65.7
	活用	44.4	49.3	46.3
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	60.6	65.0	64.3
	情報の扱い方に関する事項	43.3	48.9	46.4
	我が国の言語文化に関する事項	50.0	60.7	53.8
	話すこと・聞くこと	57.5	61.6	60.0
	書くこと	48.8	57.1	51.2
	読むこと	52.5	58.0	56.2
観点	知識・技能	55.8	60.9	59.4
	思考・判断・表現	53.4	59.1	56.4
	主体的に学習に取り組む態度	41.0	46.5	41.6
解答形式	選択	59.4	63.5	62.9
	短答	59.5	65.9	64.0
	記述	43.3	49.3	44.1

★標準スコアによるカテゴリ間の比較(各カテゴリの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



★正答率度数分布



成果が見られた問題

- 3 (2) 正答率 62.6% (全国値 48.4%、目標値 45.0%)
単語について理解している。
- 7 正答率 52.8% (全国値 47.8%、目標値 45.0%)
読み取った内容を明確にして書いている。

課題が見られた問題

- 2 (2) ③正答率 69.9% (全国値 72.7%、目標値 65.0%)
小学校で学習した漢字を正しく書いている。
- 4 (3) 正答率 55.2% (全国値 55.7%、目標値 50.0%)
文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。

中学校第1学年 国語

継続して課題となった問題

- 4(3) (本県 55.2%)
・説明的な文章の内容を読み取る際、文章の構成や展開について、根拠を基に考えることに課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】

- ・「1」を選択(県 8.4%)
- ・「3」を選択(県 22.3%)
- ・「4」を選択(県 12.9%)

【無答率】(県 1.2%)

誤答例から考えられる 授業での子供の姿

「ところで」という接続詞が、話題の転換を示す際に用いられることに気付いていない。
「事実」と「考え」の区別、文章の構成や展開について精査・解釈するまでに至っていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○説明的な文章を扱う単元 (1年思判表C読(1)エ)

◆誤答から考えられる授業

- ・「C読むこと」を指導する際、関連する「知識及び技能」を明確にしないまま「思考・判断・表現」の活動が行われている授業
- ・文章内容の読解にとどまり、構成や筆者の論の展開を精査・解釈することが意図されていない授業

☆こんな授業へ

- 「C読むこと」において、関連する「知識及び技能」を明らかにし、それらを用いて「思考・判断・表現」する場面が見られる授業
- 文章内容の読解だけでなく、文章構成、筆者の論の展開や書きぶり等について精査・解釈する言語活動を取り入れた授業

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R1全学調: 中学3年 1 ー
- ・R3県学調: 中学1年 4(3)

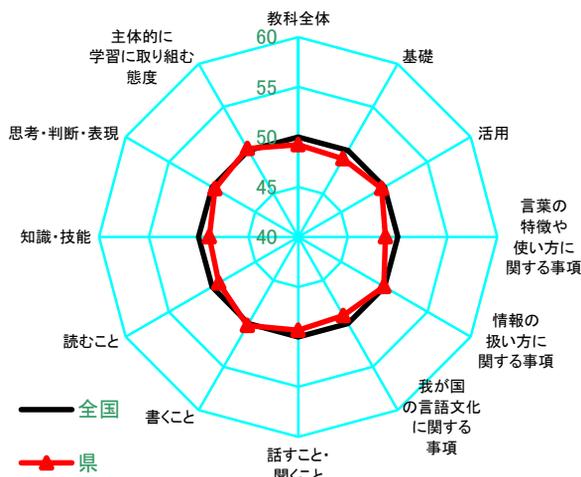
～こんな子供の姿へ～

文章の構成や展開について、身に付けた知識・技能を活用しながら、根拠を基に考えることができる子供

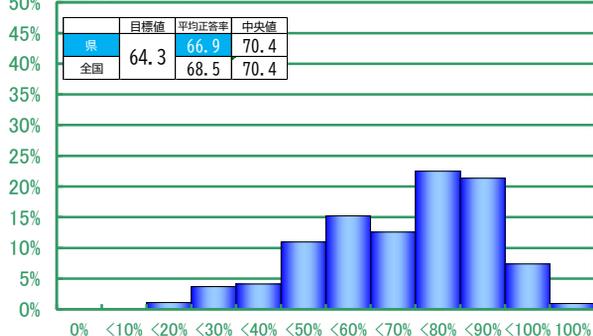
中学校第2学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	64.3	66.9	68.5
	基礎	70.0	73.0	74.9
	活用	52.8	54.8	55.6
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.9	77.4	79.9
	情報の扱い方に関する事項	47.5	51.5	51.8
	我が国の言語文化に関する事項	85.0	89.2	91.7
	話すこと・聞くこと	66.7	70.4	72.3
	書くこと	54.3	57.5	56.8
	読むこと	53.3	53.1	55.3
観点	知識・技能	71.5	75.2	77.4
	思考・判断・表現	56.3	58.3	59.1
	主体的に学習に取り組む態度	51.0	54.3	53.6
解答形式	選択	62.5	64.9	66.6
	短答	73.9	76.4	79.3
	記述	53.3	56.9	56.0

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



★ 正答率度数分布



成果が見られた問題

7 正答率 59.8% (全国値 57.1%、目標値 55.0%)
自分の考えを明確にして文章を書いている。

課題が見られた問題

- 2 (2) ③ 正答率 61.0% (全国値 68.6%、目標値 65.0%)
小学校で学習した漢字を正しく書いている。
- 5 (2) 正答率 42.4% (全国値 45.8%、目標値 45.0%)
文章を読んで考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを深めている。
- 5 (3) 正答率 57.5% (全国値 60.5%、目標値 60.0%)
文学的な文章の表現の効果について考えている。

中学校第2学年 国語

継続して課題となった問題

- 5(2) (本県 42.4%)
 - ・文学的な文章を読んで考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを深めることに課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

- 【誤答】
- ・「1」を選択(県 7.2%)
 - ・「2」を選択(県 32.2%)
 - ・「3」を選択(県 17.5%)
- 【無答率】(県 0.6%)

誤答例から考えられる授業での子供の姿

文章を読んで、自分の考えを広げたり深めたりする際に、叙述を根拠にした上で、自分の知識や経験と結び付けることや他者の考えと比較・検討するまでに至っていない。

授業改善のポイント

- ※関連する単元・内容等(指導事項)
 - 文学的な文章を扱う単元 (2年思判表C読(1)オ)
- ◆誤答から考えられる授業
 - ・文章を読んで考えたことを話し合う際に、叙述を根拠にした上で、自分の経験や知識と結び付けた交流が行われていない授業
 - ・他者の考えと自分の考えを比較・検討するような場面の設定や指導がなされていない授業

☆こんな授業へ

- 文章を読み、叙述を根拠にした上で、知識や経験と結び付けながら、理解したことや考えたことを話し合う授業
- 他者の考えやその根拠に共感したり自分の考えと対比したりしながら交流する言語活動を取り入れることで、自分の考えを広げたり深めたりできるような授業

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

・R2全学調: 中学3年 3 四

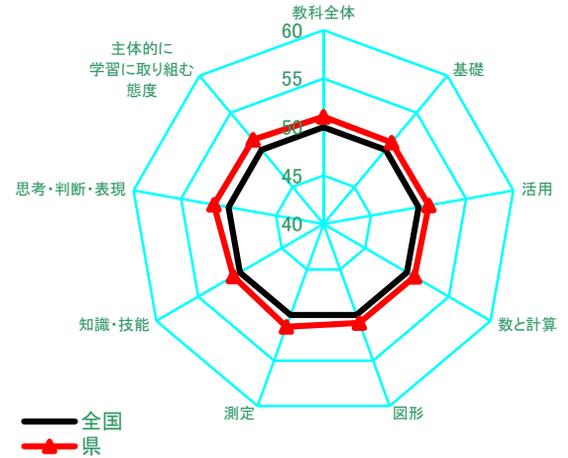
～こんな子供の姿へ～

文章を読んで理解したことや考えたことを自分の知識や経験と結び付け、他者の考えと比べながら、自分の考えを広げたり深めたりする子供

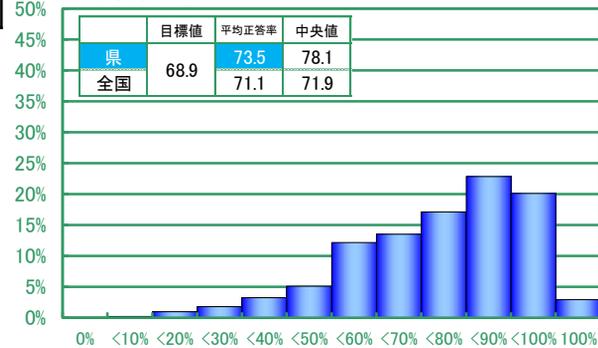
小学校第3学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	68.9	73.5	71.1
	基礎	75.3	79.2	77.1
	活用	59.6	65.1	62.4
領域	数と計算	67.4	71.4	69.4
	図形	73.3	78.2	75.6
	測定	71.3	77.2	74.0
観点	知識・技能	72.7	76.7	75.1
	思考・判断・表現	57.5	63.7	59.2
	主体的に学習に取り組む態度	60.6	66.8	63.2
解答形式	選択	71.3	75.7	74.0
	短答	70.0	74.5	71.7
	記述	42.5	48.0	43.6

★ 標準スコアによるカテゴリ間の比較(各カテゴリの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



★ 正答率度数分布



成果が見られた問題

- 6 正答率 62.4% (全国値 52.2%、目標値 50.0%)
文章問題を解くために立式した除法の式から、あまりの処理をして、正しい答えを求めている。

課題が見られた問題

- 5 正答率 70.0% (全国値 72.6%、目標値 75.0%)
文章問題を解くための乗法の式を選ぶことができる。
- 7 正答率 60.7% (全国値 62.8%、目標値 60.0%)
乗法の式に合った文章問題 (30×5の場面) を選ぶことができる。

小学校第3学年 算数

継続して課題となった問題

- 7(本県 60.7%)
- 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと
 - 日常生活の中から、乗法の式で表される場面を理解すること
- に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】

- ・「1」(30÷5)を選択(県 21.1%)
- ・「2」(30+5)を選択(県 12.9%)
- ・「3」(30-5)を選択(県 4.3%)
- ・それ以外の誤答(県 0.1%)

【無答率】(県 0.9%)

誤答例から考えられる授業での子供の姿

乗法が用いられる場面と除法が用いられる場面の違いを正しく理解するまでには至っていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○かけ算(A(3)ア(イ))

◆誤答から考えられる授業

- ・乗法が用いられる場面のみを扱い、除法が用いられる場面との違いを確認する指導が十分ではない授業
- ・単元後半において、計算技能の習得に重きを置き、式の意味理解の振り返りが少ない授業

☆こんな授業へ

- 数量の関係に着目し、図や式を用いて表現し伝え合う活動を大切に授業(問題→図→式)
- かけ算以外の問題も含め、これまで学習した式を活用して解く問題場面を子供自身が考え、四則の式の意味理解を深める授業
- 式の意味を振り返る授業(単元後半も含めて)

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・H30県学調:小学3年3(1)(2)
- ・H28県学調:小学3年2(2)

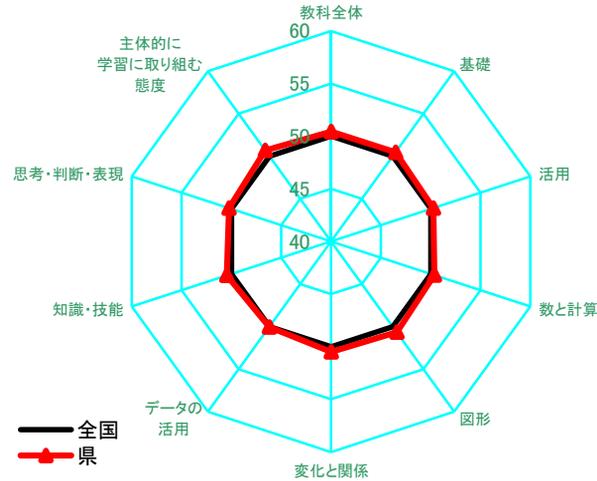
～こんな子供の姿へ～

数量の関係に着目し、問題場面に適した図や四則の式に表している子供

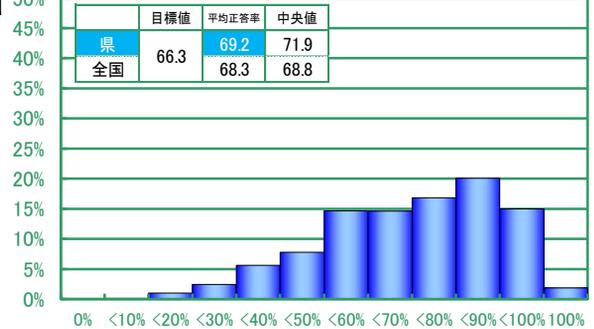
小学校第4学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	66.3	69.2	68.3
	基礎	71.1	75.2	74.2
	活用	55.5	56.2	55.5
領域	数と計算	67.3	70.0	69.2
	図形	62.5	67.0	65.4
	変化と関係	57.5	64.0	62.5
	データの活用	65.0	66.7	66.6
観点	知識・技能	69.8	73.2	72.2
	思考・判断・表現	55.6	57.2	56.6
	主体的に学習に取り組む態度	47.0	46.4	44.2
解答形式	選択	68.1	72.3	71.6
	短答	68.9	71.4	70.3
	記述	32.5	30.1	27.8

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



★ 正答率度数分布



成果が見られた問題

15 (1) 正答率 66.5% (全国値 60.3%、目標値 60.0%)
平行四辺形の作図ができる。

課題が見られた問題

- 8 正答率 57.4% (全国値 57.2%、目標値 60.0%)
計算のきまりを理解し、式に合った文章問題を選んでいる。
- 18 正答率 13.9% (全国値 12.2%、目標値 30.0%)
示された考えをもとに、数の相対的な大きさを使って、小数の加法を整数の加法に直して処理する方法を説明している。

小学校第4学年 算数

継続して課題となった問題

- 18(本県 13.9%)
 - ・小数の相対的な大きさを理解すること
 - ・小数の加法を整数の加法に直して処理する方法を説明すること
 に課題が見られます。
- ※記述式の問題で、継続的な課題が見られる。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】
・小数の計算の答えは出せているが、考え方が誤っている場合(県 14.8%)
・上記以外の誤答(県 54.6%)
【無答率】(県 16.6%)

誤答例から考えられる授業での子供の姿

小数の相対的な大きさの理解(例:3.21は0.01が321集まった数)までには至っていない。
数を構成する単位に着目した上で、整数の計算と関連付けながら計算の仕方を考え表現するまでには至っていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○小数(A(4)イ(ア))

◆誤答から考えられる授業

- ・小数の相対的な大きさの理解の習得に向けた指導が十分ではない授業
- ・計算技能の習得に重きを置き、計算の仕方を考え表現する指導が十分ではない授業

☆こんな授業へ

- 数の構成や、数の相対的な大きさについての理解状況(○は△のいくつ分)の確認を大切にした授業
- 整数の加法と関連付けながら計算の仕方を考え、表した式の理由を表現し、伝え合う活動を大切にした授業(対話活動後、分かったこと等を記述する場を設定する)

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

・R2全学調:小学6年3(4)

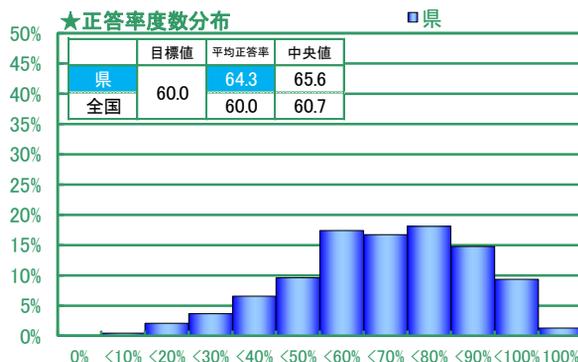
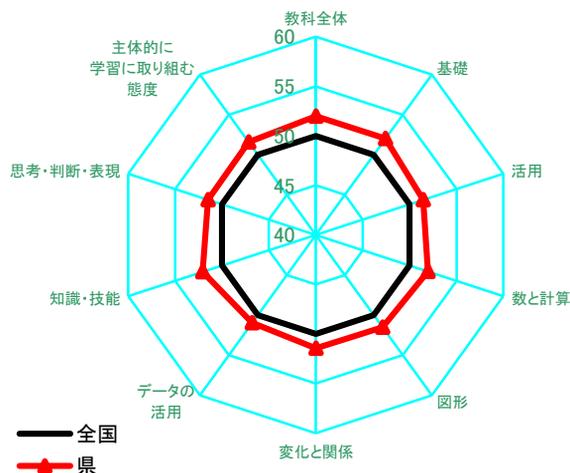
～こんな子供の姿へ～

小数の相対的な大きさを理解した上で、計算の仕方を既習の計算方法と関連付けて伝え合う子供

小学校第5学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	60.0	64.3	60.0
	基礎	66.1	71.1	66.5
	活用	44.4	47.0	43.3
領域	数と計算	65.3	69.1	64.5
	図形	52.1	58.8	54.4
	変化と関係	61.3	65.2	61.2
	データの活用	45.0	47.5	44.2
観点	知識・技能	65.3	70.8	66.0
	思考・判断・表現	51.3	53.5	50.1
	主体的に学習に取り組む態度	50.0	53.4	49.1
解答形式	選択	58.5	64.6	60.6
	短答	66.5	69.8	65.0
	記述	30.0	26.2	22.6

★ 標準スコアによるカテゴリ間比較(各カテゴリの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



成果が見られた問題

5 正答率 71.3% (全国値 60.5%、目標値 60.0%)
 小数の乗法でも分配法則が成り立つことを理解している。

課題が見られた問題

15 (2) 正答率 17.6% (全国値 14.4%、目標値 30.0%)
 ななみさんの式が何を求めているのかを理解し、どちらのほうのほうがよくとれたといえるのかを説明している。

17 (2) 正答率 38.5% (全国値 40.4%、目標値 40.0%)
 平均から全体の量を推測することができる。

小学校第5学年 算数

継続して課題となった問題

- 15(2) (本県 17.6%)
 - ・単位量あたりの大きさの意味を理解すること
 - ・数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考え、説明することに課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
 各学校で問題を御確認ください。

【誤答】

- ・結論は正しいが、ななみさんが何を求めたのかを誤っている、もしくは書いていない場合 (県 18.2%)
- ・結論を誤っている場合 (県 6.5%)
- ・上記以外の誤答 (県 37.4%)

【無答率】(県 20.3%)

誤答例から考えられる授業での子供の姿

○÷△で求めた数値の意味理解(単位量あたりの大きさの意味)が不十分であるため、単位量あたりの大きさを用いて比べる方法を説明するまでには至っていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○単位量あたりの大きさ(C(2)イ(ア))

◆誤答から考えられる授業

- ・計算で求めた数値の意味理解(例:1m²あたりの米の量)の確認が十分ではない授業
- ・二量のうち、どちらの量を基にしても比べられることを確認したり、比べる方法を説明したりすることが十分ではない授業

☆こんな授業へ

- 計算で求めた数値の意味について、単位を付けて伝え合う授業(例:1m²あたり0.4kg)
- どちらの量を基にして比べるかを児童自身が判断し、式の表し方や求めた数値の意味を考え伝え合う授業

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R3全学調:小学6年 A1(3)
- ・H30全学調:小学6年 4(1)(2)

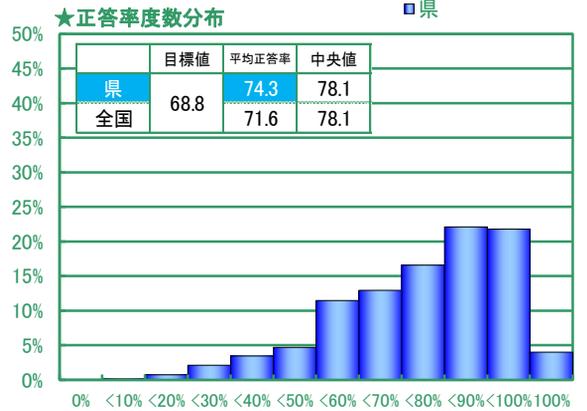
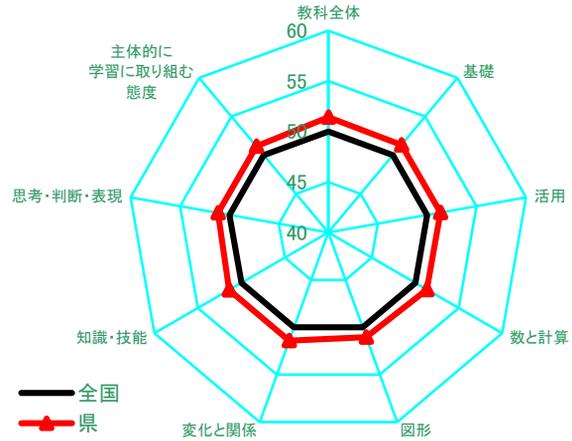
~こんな子供の姿へ~

二量の大きさを比べるとき、二量のうちのどちらの量を基にしても比べている子供

小学校第6学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	68.8	74.3	71.6
	基礎	72.8	77.8	75.3
	活用	58.3	65.5	61.9
領域	数と計算	71.4	77.3	74.6
	図形	71.0	76.1	73.9
	変化と関係	51.3	56.4	52.0
観点	知識・技能	72.4	77.4	74.8
	思考・判断・表現	55.7	63.2	60.1
	主体的に学習に取り組む態度	60.0	65.3	62.2
解答形式	選択	68.2	73.9	71.2
	短答	72.8	78.0	75.0
	記述	40.0	48.6	46.4

★ 標準スコアによるカテゴリ間の比較(各カテゴリの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



成果が見られた問題

4 正答率 74.9% (全国値 68.9%、目標値 65.0%)
除法の性質を用いて、分数の除法をしている。

課題が見られた問題

- 6 (2) 正答率 66.0% (全国値 64.7%、目標値 65.0%)
分数の乗法の文章問題にあった式を選ぶことができる。
- 11 (2) 正答率 69.7% (全国値 67.6%、目標値 70.0%)
拡大図や縮図について理解し、既習の図形を捉え直している。

小学校第6学年 算数

継続して課題となった問題

- 6(2) (本県 66.0%)
- ・数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと
 - ・分数の乗法で表される場面を理解することに課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】

- ・「1」(加法)を選択(県 1.4%)
- ・「2」(減法)を選択(県 3.0%)
- ・「4」(除法)を選択(県 29.2%)
- ・それ以外の誤答(県 0.1%)

【無答率】(県 0.3%)

誤答例から考えられる 授業での子供の姿

分数の乗法が用いられる場面と除法が用いられる場面の違いを正しく理解するまでには至っていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○分数のかけ算・わり算(A(1)ア(ア))

◆誤答から考えられる授業

- ・分数の乗法が用いられる場面のみを扱い、分数の除法が用いられる場面との違いを確認する指導が十分ではない授業
- ・問題場面を児童自身が線分図に表す活動が少なく、演算決定した理由を明らかにするような指導が十分ではない授業

☆こんな授業へ

- 数量の関係に着目し、線分図や式を用いて表現し伝え合う活動を大切に授業(問題→図→式)
- 分数の乗法や除法を用いて解決する問題場面を児童自身が設定し、解決に至る過程を線分図や式を用いて説明し合う授業

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・H30全学調:小学6年 A2 ※小数
- ・H27県学調:小学6年 6

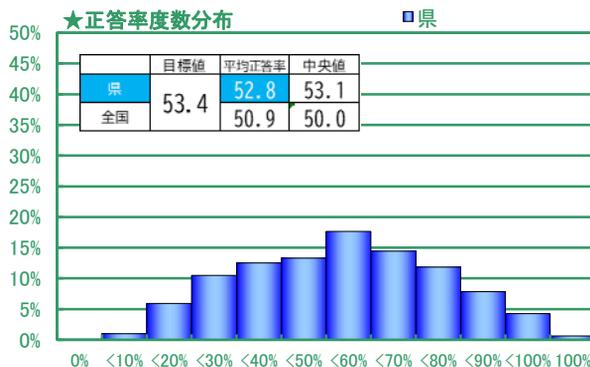
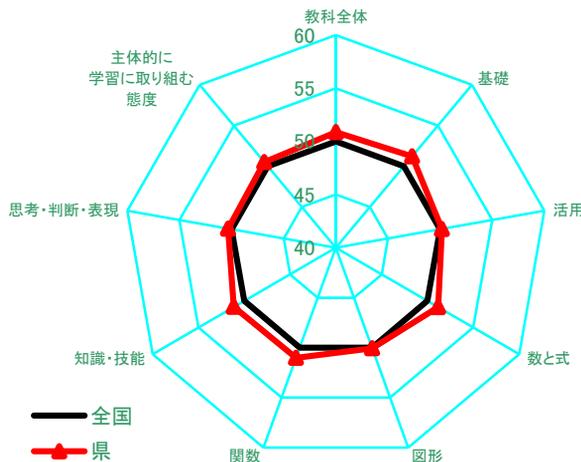
～こんな子供の姿へ～

分数の乗法を含め、これまでに学習した小数や分数の四則演算の意味を理解し、問題解決に活用している子供

中学校第1学年・数学の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	53.4	52.8	50.9
	基礎	59.4	62.0	59.1
	活用	35.6	26.7	26.2
領域	数と式	52.8	53.4	50.6
	図形	62.5	60.4	60.2
	関数	51.0	50.1	47.6
観点	知識・技能	57.7	59.7	57.0
	思考・判断・表現	40.6	33.3	32.4
	主体的に学習に取り組む態度	39.6	33.6	32.3
解答形式	選択	61.7	63.6	61.5
	短答	48.3	48.5	45.2
	記述	30.0	8.9	13.2

★ 標準スコアによるカテゴリ間の比較(各カテゴリの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



成果が見られた問題

10 (2) 正答率 42.1% (全国値 36.3%、目標値 35.0%)
比例の関係について理解している。

課題が見られた問題

16 (2) 正答率 7.8% (全国値 11.8%、目標値 30.0%)
正三角形の個数からコインの個数を求める式について説明することができる。

17 (2) 正答率 10.1% (全国値 14.6%、目標値 30.0%)
海水の量ととり出せる塩の量の関係を式で表し、式から必要な海水の量を求める方法を説明することができる。

中学校第1学年 数学

継続して課題となった問題

- 17(2) (本県 10.1%)
 - ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
 に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】
・ $(y=)25x$ を記述し、式に値を代入して求めることを説明しているが、 y の値が500であるときの x の値を求めることの記述がない(県 0.2%)
・それ以外の誤答(県 59.4%)
【無答率】(県 30.3%)

誤答例から考えられる授業での子供の姿

直線のグラフを式化するまでには至っていない。
座標平面上で y 座標が500のときの x 座標を読み取ることを明示して説明するまでには至っていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○比例、反比例(C(1)イ(イ))

◆誤答から考えられる授業

- ・何に着目し、どのように考えたのかを説明する活動が取り入れられていない授業
- ・問題解決の過程を振り返り、曖昧な表現を吟味し、表現をより洗練する活動が十分ではない授業

☆こんな授業へ

○具体的な場面において、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決のためにどう用いたかといった「用い方」について説明する活動を取り入れた授業

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

・R4全学調:中学校3年 8(2)

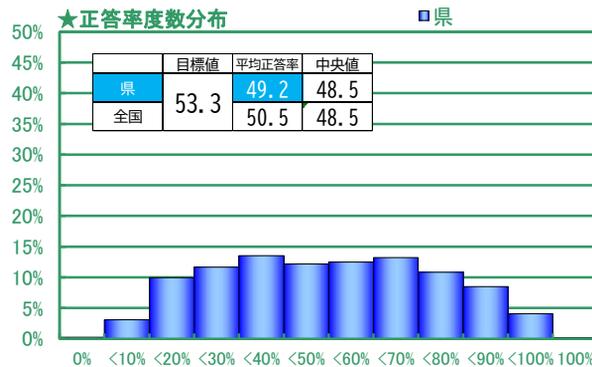
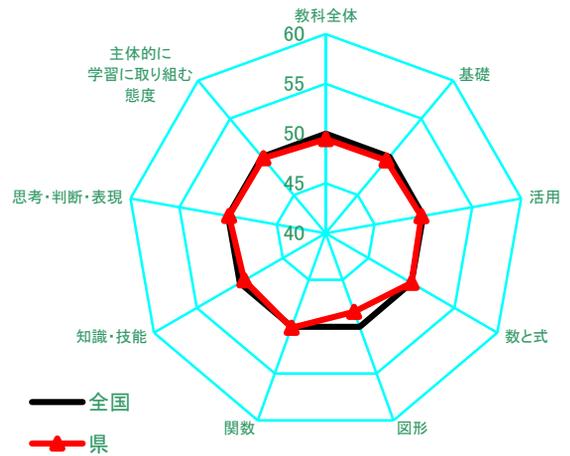
~こんな子供の姿へ~

具体的な場面において、事象を理想化したり抽象化したりして、関数を活用して考察できる子供

中学校第2学年・数学の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	53.3	49.2	50.5
	基礎	58.2	56.0	57.3
	活用	38.1	29.1	29.6
領域	数と式	49.6	44.6	44.6
	図形	65.0	58.5	63.3
	関数	50.8	49.9	49.6
観点	知識・技能	59.0	56.8	58.1
	思考・判断・表現	38.3	30.1	30.3
	主体的に学習に取り組む態度	38.1	29.1	29.6
解答形式	選択	55.4	55.1	55.8
	短答	56.1	51.3	52.9
	記述	28.3	15.5	15.8

★標準スコアによるカテゴリ間の比較(各カテゴリの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



成果が見られた問題

9 (1) 正答率 53.9% (全国値 50.0%、目標値 50.0%)
グラフがx軸に平行な方程式を選ぶことができる。

課題が見られた問題

4 正答率 12.3% (全国値 13.4%、目標値 30.0%)
与えられた文章問題に対して、適切な連立方程式を立式することができる。

17 (2) 正答率 5.1% (全国値 10.3%、目標値 25.0%)
特定の冊数を超えた場合、A社が最も得であることを、グラフを用いて求める方法について、説明することができる。

中学校第2学年 数学

継続して課題となった問題

- 4 (本県 12.3%)
 - 数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表したり読み取ったりすること
 - 連立二元一次方程式を具体的な場面で活用すること

に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】

- 1つの二元一次方程式として、「 $x+y=2400$ 」と解答している (県 27.4%)
- 1つの二元一次方程式として、「 $(x/75) + (y/300) = 14$ 」と解答している (県 0.8%)
- それ以外の誤答 (県 32.1%)

【無答率】(県 27.3%)

誤答例から考えられる 授業での子供の姿

問題を解決するために、着目する必要がある数量の関係を見いだすまでには至っていない。
見いだした数量に着目して式をつくることのできるまでには至っていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○連立二元一次方程式(A(2)イ(イ))

◆誤答から考えられる授業

- 「文字を用いた式」の定着確認や振り返りが十分ではない授業
- 問題の中の相等関係にある数量を生徒が捉える前に、教師が示す授業
- どのような数量に着目してつくられた方程式なのか振り返る活動が十分ではない授業

☆こんな授業へ

○問題の中の数量を整理し、その中から相等関係にある数量を見いだして、連立二元一次方程式を活用して問題を解決したり、その過程を説明する活動を取り入れた授業

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- H30全学調: 中学3年 A 3(4)
- H27全学調: 中学3年 A 3(3)

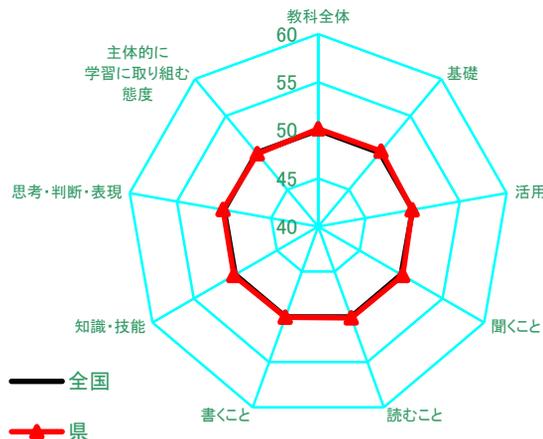
~こんな子供の姿へ~

文章題や表から数量の関係を捉え、特定の2つの変数の関係に着目して連立方程式を作り、問題解決に生かそうとしている子供

中学校第1学年・英語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	54.0	51.7	51.4
	基礎	56.1	54.7	54.2
	活用	48.9	44.5	44.6
領域	聞くこと	65.6	66.1	65.7
	読むこと	51.4	48.8	48.5
	書くこと	47.8	43.5	43.4
観点	知識・技能	58.9	58.4	58.0
	思考・判断・表現	46.3	41.2	41.0
	主体的に学習に取り組む態度	37.5	29.2	29.5
解答形式	選択	59.5	58.8	58.2
	短答	43.0	38.6	39.5
	記述	45.0	39.1	38.9

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



★正答率度数分布



成果が見られた問題

- 3 正答率 94.6% (全国値 93.6%、目標値 85.0%)
日常的な話題についての英文を聞き、概要を捉えている。

課題が見られた問題

- 8 (3) 正答率 26.1% (全国値 31.0%、目標値 40.0%)
基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。
(be動詞の否定文、所有代名詞)
- 9 (1) 正答率 9.5% (全国値 13.7%、目標値 25.0%)
対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。
(whatを使って行動をたずねる)

中学校第1学年 英語

継続して課題となった問題

- 8(3) (本県 26.1%)
 - ・文構造や文法事項を正しく用いて、正しい語順で文を構成すること
 - ・be動詞を用いた文の形・意味・用法を理解すること
 - ・所有代名詞を用いた文の形・意味・用法を理解すること

に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】(県 69.8%)
・Mine is not this book
・This book not is mine など

【無答率】(県 4.1%)

誤答例から考えられる 授業での子供の姿

基本的な文の語順を理解できていない。be動詞や所有代名詞を用いた英文の形・意味・用法を理解し、それらを活用して表現するまで至っていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○書くこと

◆誤答から考えられる授業

・be動詞や所有代名詞について、基礎的・基本的事項の習得が不十分であり、意味のある文脈の中で、それらを活用する指導まではできていない授業

☆こんな授業へ

- 対話や文章の流れからふさわしい文の形式や時制を考えさせる、また代名詞の働きに着目させるなど実際のコミュニケーションにおいて知識及び技能を言語活動を通して活用する授業
- Small Talkや言語活動において、be動詞や所有代名詞を用いた表現を意図的・継続的に活用する授業

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・H28県学調: 中学1年 5
- ・H29県学調: 中学1年 9

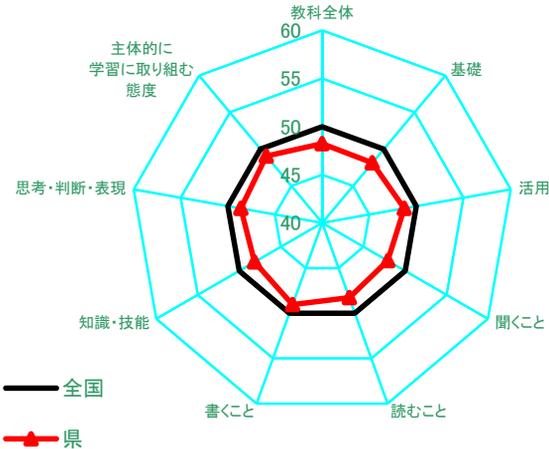
～こんな子供の姿へ～

be動詞や所有代名詞の基本的な英文を理解した上で、目的や場面、状況などに応じて、正確に表現している子供

中学校第2学年・英語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	54.2	50.6	54.2
	基礎	57.3	52.9	56.8
	活用	47.5	45.4	48.6
領域	聞くこと	65.6	64.7	69.3
	読むこと	53.6	50.1	53.9
	書くこと	43.9	37.0	39.7
観点	知識・技能	60.8	57.5	61.5
	思考・判断・表現	44.6	40.5	43.6
	主体的に学習に取り組む態度	37.5	31.1	33.8
解答形式	選択	60.5	58.0	62.1
	短答	45.0	38.9	42.5
	記述	40.0	34.2	36.6

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



成果が見られた問題

1 (1) 正答率 98.3% (全国値 98.0%、目標値 90.0%)
絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。

課題が見られた問題

10 (1) 正答率 13.1% (全国値 14.7%、目標値 25.0%)
対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。
(How about ~ing? を使って相手に提案する)
10 (2) 正答率 6.3% (全国値 10.0%、目標値 25.0%)
対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。
(where を使って場所をたずねる)

中学校第2学年 英語

継続して課題となった問題

- 10(2) (本県 6.3%)
 - ・対話の流れを理解すること
 - ・疑問詞を用いた英文の形・意味・用法を理解すること
- に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

- 【誤答】(県 52.0%)
- ・Did you find my bag
 - ・Where do you know my bag
 - ・Where is my bag など

【無答率】(県 41.7%)

誤答例から考えられる授業での子供の姿

対話の目的や場面、状況などを理解できていない。
また疑問詞を用いた英文の形・意味・用法を理解し、それらを活用して表現するまで至っていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○書くこと

◆改善の余地が見られる授業

・疑問詞について、形・意味の理解に特化した指導に終始し、意味のある文脈の中で、どのように活用できるのかについては指導が不足している授業

☆こんな授業へ

- 目的や場面、状況などに応じて適切なやり取りとなるよう言語活動を通して疑問詞(疑問文)を実際に活用できる授業
- 言語活動では中間指導を適宜行い、生徒の誤りのある表現等を取り上げながら、疑問詞(疑問文)の定着を図るとともに、多様な表現を共有する授業

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・H28県学調: 中学2年 8
- ・H30県学調: 中学2年 8

~こんな子供の姿へ~

疑問詞を用いた基本的な英文を理解した上で、目的や場面、状況などに応じて、正確に表現している子供

校内研修シート②「伸び（変容）」を分析する

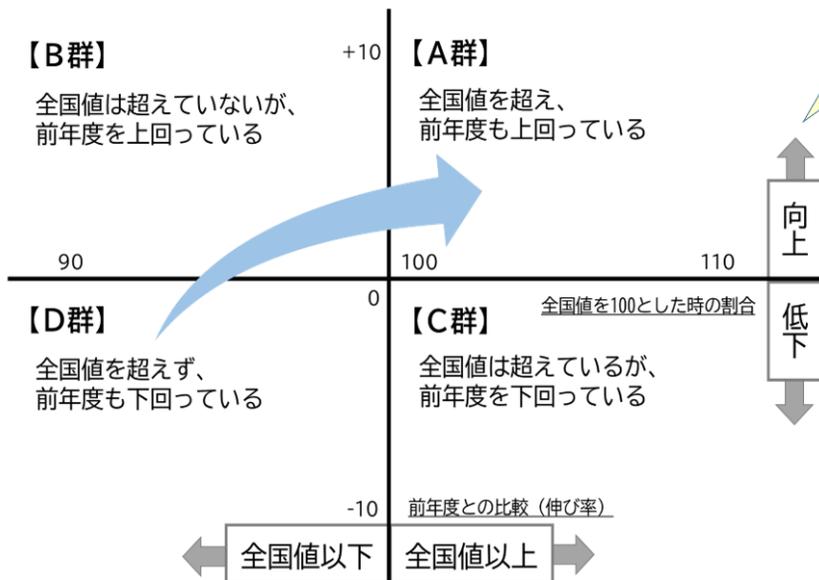
◇各学校でも自校の4分類を踏まえた「伸び（変容）」を抽出し、今後の取組を話し合しましょう。

同一集団の伸び（変容）に着目した分類

「熊本の学び」アクションプロジェクトハンドブックより一部修正

学校群の4分類について

※横軸は、全国値を100とした時の割合、
縦軸は、前年度と比較した伸び率
(全国値を100とした時の割合の差)を算出。



※県学調と全学調では、全国の調査に参加している母体数は異なります。

① 自校の位置を把握しましょう。

群

※令和3年度の県学調の結果から、自校を【A群】から【D群】に配置すると、令和4年度県学調の結果では、自校は何群にあたるでしょうか。

② 「伸び（変容）」を分析し、その要因を書きましょう。

③ 今後の取組を話し合しましょう。

【例】校内研修シート②「伸び（変容）」を分析する

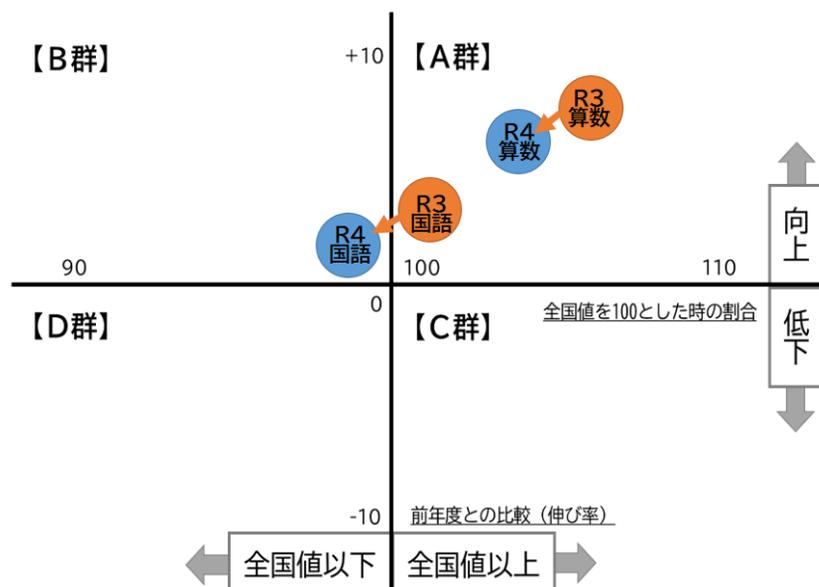
◇各学校でも自校の4分類を踏まえた「伸び（変容）」を抽出し、今後の取組を話し合しましょう。

同一集団の伸び（変容）に着目した分類

「熊本の学び」アクションプロジェクトハンドブックより一部修正

学校群の4分類について

※横軸は、全国値を100とした時の割合、
縦軸は、前年度と比較した伸び率
(全国値を100とした時の割合の差)を算出。



※県学調と全学調では、全国の調査に参加している母体数は異なります。

① 自校の位置を把握しましょう。

小6国語…B群、小6算数…A群

*学校全体だけでなく、学年・クラス・個人単位でも分析することができます。

※令和3年度の県学調の結果から、自校を【A群】から【D群】に配置すると、令和4年度県学調の結果では、自校は何群にあたるでしょうか。

② 「伸び（変容）」を分析し、その要因を書きましょう。

- ・国語は、「知・技」の領域が昨年度より下降している。
- ・算数は、「数と計算」の平均正答率が昨年度より下降している。

*正答率の低い問題の傾向や誤答の傾向、昨年度の傾向との比較等、様々な視点から要因を分析しましょう。

③ 今後の取組を話し合しましょう。

- ・「思・判・表」の指導を行う際に、関連する「知・技」を明確にした指導を行う。
- ・単元終了後においても、計算技能の定着確認の場を設定する。

参考 ※次年度も含め、本シートを校内研修、学年会、教科部会等、様々な場面で活用し、問題分析を通じた授業改善に取り組みましょう。

校内研修シート③ 「問題分析から授業改善へ」

◇各学校でも問題を分析し、授業改善の方策を考えてみましょう。

<作成日>	<活用場面>	<状況の確認>
-------	--------	---------

取り出した問題：学年() 教科() 問題番号()
※平均正答率：自校()%、県()% 目標値：()%

①「題材(問題場面等)」や「配列(問題の構成や順序)」、「問い方(条件設定や発問)」の工夫について、気づいたことを話し合います。

○今後の授業改善に向けた方策(内容)をまとめましょう。

②分析資料の解答類型等から、自校の子供たちのつまずきの状況を確認し、その要因を考えましょう。

※研究授業等で、進捗状況を確認しましょう。

参考 ※次年度も含め、本シートを校内研修、学年会、教科部会等、様々な場面で活用し、問題分析を通じた授業改善に取り組みましょう。

【例】校内研修シート③ 「問題分析から授業改善へ」

◇各学校でも問題を分析し、授業改善の方策を考えてみましょう。

<作成日> 令和5年5月17日(水)	<活用場面> 教科部会(数学)	<状況の確認> 10月の小研(教科別)での提案授業
-----------------------	--------------------	------------------------------

取り出した問題：学年(2年) 教科(数学) 問題番号(17(2))
※平均正答率：自校(○○)%、県(5.1)% 目標値：(25.0)%

①「題材(問題場面等)」や「配列(問題の構成や順序)」、「問い方(条件設定や発問)」の工夫について、気づいたことを話し合います。

- ・生徒が身近に感じる生活場面を題材にしている。
- ・グラフから分かることを読み取りたくなるように、「お得である」理由を説明させる問い方をしている。

○今後の授業改善に向けた方策(内容)をまとめましょう。

②分析資料の解答類型等から、自校の子供たちのつまずきの状況を確認し、その要因を考えましょう。

- ・無答が多い。
→自分の考えを言葉や式、表、グラフなどを用いて表現する活動が不足している。
- ・グラフの読み取りができていない。
→グラフに表された直線がどのような事象を表したもののなのか、理解できていない。

- ・教科書を参考に、生徒にとって身近な事象を問題場面として設定する。
- ・文章問題を取り扱う授業では、教師側から式や表などを与えるのではなく、問題場面から分かることを、生徒自身が言葉や表、グラフなどに表す活動を設定する。
- ・自分の考えを書きたくなるような問い方(お得である理由、など)の工夫を行う。